

～開業奮闘記～



第52話「夢」其の参（完結編）

前回からの続き

かくして神戸のライブハウスで働き出したN君ですが、彼は熱心なプロレスマニアでもありました。

特に好きだったのは、当時「プロレスリング・ノア（以下ノア）」という団体の社長であり看板レスラーでもあった三沢光晴選手。

僕も三沢選手の大ファンで、よく彼と飲みながら三沢選手の話で盛り上がっていました。

彼はライブハウスを始めた頃から「いつか三沢選手を呼んでトークショーをしたい」という夢がありましたが、当時の三沢さんはトークショーとかには簡単に来てくれない人で有名でした。

特に当時の神戸という土地のプロレス界隈は、あのアントニオ猪木さんが仕切ってるというような暗黙のルールがあり、三沢さんが来てくれる可能性はほぼゼロという状況だったと聞いています（三沢さんは猪木のライバルであるジャイアント馬場の弟子）。

けれども、**それで諦めるN君ではありませんでした。**

N君がある日から急に、「俺、H選手が最近めっちゃくちゃ好きやねん」と言い出したんです（今までそんな話一切したことなかった）。H選手というのはノアの所属プロレスラーで、確かに良い選手なのですが、決して派手でも華があるわけでもなく、正直「目立たない地味な中堅レスラー」というイメージの選手でした。

しかしそこからN君はH選手に強烈なラブコールを送りだし、熱心にメールを送るようになり、なんとライブハウスでH選手とN君の**二人きりでのトークショー開催にこぎつけるのです。**

そのトークショーは大成功に終わり、H選手と仲良くなったN君はそれから何度も二人のトークショーを開催することとなります。

そうこうしているうちに、ノアの団体内で「神戸にHの強烈なファンの変わった若者がいるらしい」と噂になり始めます。そしてついには、三沢光晴さんの耳にまでその噂が届くのです・・・！！

そしてそれを知ったN君は、そのタイミングで満を持して三沢選手にトークショーのオファーをかけます。
「そんなにプロレスリング・ノアのことを愛してくれる奴が神戸にいるなら、俺は行くよ」

なんと三沢さんが神戸までトークショーに来てくれることになったのですが・・・そう、もちろん全てこれはN君の計算だったのです・・・！！

高校時代から培ったあの戦略的思考力で、まさかあの三沢光晴まで呼ぶことになるとは・・・。

もちろんトークショーは大成功（なぜか歌手の円広志さんが一般でチケットを買って普通にファンとして客席にいられていました）。いや～これにはさすがに僕も震えましたね・・・。

そしてトークショーの後の少人数での食事会にもN君の計らいで呼んでもらい、僕の人生にとって忘れられない最高の夜となりました。あの憧れの三沢さんと普通に話せている状況に、酔いもあいまって夢かどうかわからなくなり、本当にリアルに自分のほっぺたをつねりましたよ。

そんな三沢さんですが、それからしばらくして試合中の事故でリング上で亡くなってしまいます。

「受け身の天才」と称された三沢さんが単純なバックドロップで意識を失い、そのまま帰らぬ人となりました。

享年46歳。

あの憧れの三沢さんは、気がつけば僕よりも年下になってしまいました。

少しでも三沢さんのような男になりたいと思って生きてきたけど、少しは近づけたかなあ・・・。

豪快に酒を飲んで、豪快にずっと下ネタを言い続けていた三沢さんの姿が今でも目に浮かびます。



有し日の三沢さんと若き日の筆者
三沢光晴Forever・・・